

連絡会ニュース

子どもと教育・くらしを守る広島県立学校教職員連絡会

No.1280 2024/03/28 (Thu)

発行 広島高校連絡会事務局

Email renraku-kuko@mx6.tiki.ne.jp

HP <http://ww6.tiki.ne.jp/~renraku-kuko/>

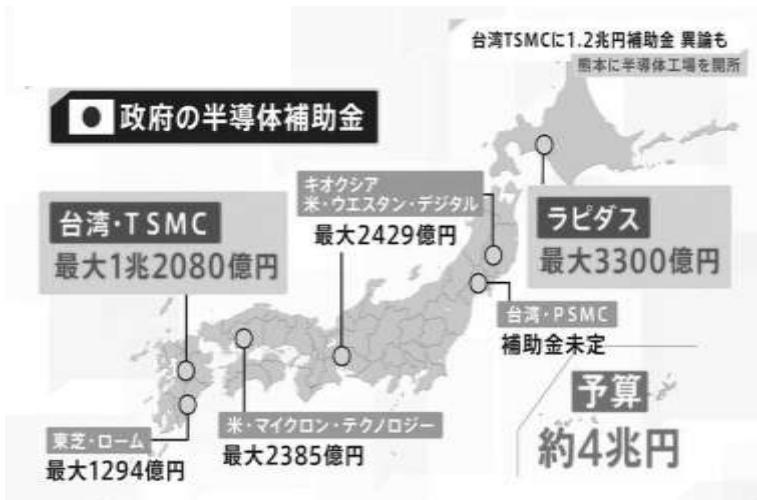
携帯 090-1180-7644 (村井義幸)

090-9738-8264 (望月照巳)

なぜ? 堪えない教育予算シリーズ ①

台湾の半導体大手 TSMC に日本政府が“1.2 兆円”の巨額補助金

「巨額補助 (= 全国民ひとり 1 万円) の常態化」政府部内でも異論



熊本県に工場を開いた台湾の半導体企業「TSMC」に対し、政府は最大 1 兆 2000 億円の補助金を投入すると表明した。国民の負担は単純計算で 1 人 1 万円、児童手当の高校までの拡充に必要な予算 (約 1 兆 5000 億円) に迫る大きな額。「巨額補助が常態化してしまうことに強い懸念を持っている」と政府内から異論も出ている。熊本県の 2024 年度予算は、7700 億円、政府の中小企業対策費は 1693 億円で実に 7 倍もの予算投入。

経産省の責任者が語る「補助金の意義??」

経済産業省商務情報政策局 野原諭局長は「コロナの時代に半導体が不足して、自動車の生産も止ま

った。各国の誘致競争の中で、日本に投資を集めるためには一定額の支援がいるのが現実」と語る。1980 年代後半、日米貿易摩擦で、アメリカは特に日本のシェアが高かった半導体に輸出や価格を 10 年にわたって厳しく規制。失われた 30 年で、日本企業が投資を減らしたことも重なり、シェアを失いこの分野で失速を余儀なくされた。

又、「(日本の半導体は) 苦闘の歴史を刻むわけですが、これを機にもう 1 回、日本の半導体産業の復活の端緒としたい」(斎藤健 経済産業大臣) アメリカ言いなりで「失われた 30 年」は他人事である。この大臣はどこの国の人でしょうか。政府はこの他、次世代半導体の国産化を目指すラピダスへの助成を含めて、総額 4 兆円もの予算を確保している。

【日本政府の半導体補助金】

- ▼北海道 ラピダス 最大 3300 億円 / ▼岩手県・三重県 キオクシア 米・ウエスタン・デジタル 最大 2429 億円
- ▼宮城県 台湾・PSMC 補助金未定 / ▼広島県 米・マイクロン・テクノロジー 最大 2385 億円
- ▼熊本県 台湾・TSMC 最大 1 兆 2080 億円 / ▼宮崎県 東芝 ローム 最大 1294 億円

強い懸念～投資に見合った効果は得られるのか?～

「半導体産業への巨額補助は本当に異例のこと。これが常態化してしまうことに強い懸念を持っている」(政府関係者) 日本の政府が投資する 1 兆 2000 億円という巨額な数字、これは半導体が他よりも何よりも“最重要資源”であると位置づけているからであって、石油と同じ“戦略物資”と捉え「半導体を制したものが世界を制す」という考え方である。

元東芝の東京大学大学院教授の黒田忠広氏は「石油でオイルショックが起きたように、半導体も自国に工場がないと経済が麻痺する」というが、食料自給率 30% 台はどうか。食べるものがない国で、半導体が食料になるわけもない。年間の出生者数 75.8 万人と過去最低を記録するこの現実はどうするつもりなのか。結局、目先のトヨタなどの自動車産業や SONY などの電子産業・大企業の言いなりである。

民間企業に巨額の補助が行われるわけだが、投資効果の検証・監察・説明など不透明な手法だけが目立つ。「異次元の子育て支援」はどこへ消えたのだろうか。

お文銭は裏面に掲載



▼『未来』は不連続である」と言われる。選挙などは、当落という明確な結果が、開票日には分かり、それは劇的な変化である。当選か落選化で「今日とは全く違う明日が」訪れる▼にもかかわらず私たちは、今日の反応の良さや「これまでの実績の確かさ」という自分（陣営）の楽観的な判断を前提に「今日と同じ予想通りの明日だろう」と考えがちです▼現状を深めて分析すれば分かることだが、現在の福山市議選挙（定数38に対して60名近い立候補が予定されている）では、半数に及ぶ新人がしのぎを削っている。もちろん現職がいる地域も新人が立候補して、激しい選挙戦が進行中▼「地域の代表として」「企業の代表」「組合（特定の団体）の代表」とか、「身近な人に頼まれた」などの理由で、多くの人々は投票行動を決定する▼市議会での論戦、福山市提案の予算、それに対する態度と私たちの生活が、どれ程直接に結び付き影響を与えるものについて多忙な生活ではなかなか、注意深く見たり聞いたりするという習慣がない▼だから、かつて30数票差で落選した県議会議員選挙があったし、全国の選挙で現職が全体としては、全員当選の票数を得ているのに、一人取りこぼす例が眼立つのは、「私の一票がなくても大差ない」「私の支持拡大活動って、全体の中では僅かだから」と、自分に都合の良い理由を考えて、全力を尽くさない方向に流されたとき、まさに「不連続な予想に反する」「未来」に遭遇するのだろうか▼繰り返すが、そんなことは起こりようもないという抽象的可能性であっても、予想もしない出来事が重なりと現実になる▼だから、危機対策は、「最悪の状態」を想定して、それらの対策をひとつ一つ具体的に実行していくことが、原則だといわれている。それが常識的な国や地域もあるが、日本は、楽観的な状況の対策がほとんどで、事故が起きた条件や状況は「想定外でした」で、逃げていく▼投票日まで、あと一〇日。「主力を尽くした。悔いはありません。『結果は、後からついてくる』だけ」という闘いで終わるために、まだまだやるべきことがある。